

令和6年度 学校関係者評価委員会 「学校評価アンケート」の結果について（第1報）

I 学校評価アンケートについて

学校関係者評価に関するアンケート調査（以下、本調査）の概要については、以下の通りである。

（1）本調査の実施時期・方法

生徒・保護者・地域に対して令和6年11月1日に通知し、令和6年11月15日までに回答してもらった。前年度と同様に、回答者はパソコンやタブレット等の端末でインターネットを通じて回答し、送信して提出する方式で実施した。

（2）本調査の対象・回答方式

生徒、保護者、地域を対象者として、区教育委員会が設定する共通評価項目と、本校独自の項目について、「A とても思う」「B 思う」「C あまり思わない」「D 思わない」「E わからない」の5件法で回答する方式で実施された。

（3）本調査の回答結果

本調査の回収（回答）結果は下表の通りであった。

※小数点以下、四捨五入。

回答者属性	対象者数	回答者数	回収率	前年度
生徒	541名	446名	82%	83%
保護者	541名	291名	54%	60%
地域	73名	43名	59%	33%

（4）その他

□「学校関係者評価」の調査項目について、共通評価項目及び本校の独自評価項目について、基本的には昨年度と同一である。

Ⅱ 学校経営方針の「重点目標」に関する評価結果について

学校関係者評価委員会は、生徒、保護者、地域による本調査の項目に対する「A とても思う」「B 思う」の回答割合を「肯定的評価」として捉えた上で、その肯定的評価を中心にして調査結果を概観するとともに、適宜、当委員会における見解や改善の方向性を示したい。

本年度の本校の「経営方針」において掲げられた重点目標に関する調査結果については、下表の通りである。

【経営方針における重点目標と学校関係者評価の結果及び達成状況】

※小数点以下、四捨五入で切り捨て。

＜凡例＞ ○…「達成」 ●…「未達成」

回答者	重点目標における項目と数値目標	令和6年度 結果	達成 状況	(参考) 前年度	前年度 比
生徒	「学校生活は、楽しい」を <u>90%</u> 以上とする。	89%	●	87%	+2
	「鳥山中学校が好きである」が <u>90%</u> 以上とする。	89%	●	85%	+4
保護者	「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい」が <u>90%</u> 以上とする。	82%	●	83%	-1
生徒	「先生は、わかりやすく授業をしている」※ ¹ が <u>90%</u> 以上とする。	94%	○	86%	+8
保護者	「本校は、分かりやすい授業をしている」※ ² が <u>70%</u> 以上とする。	54%	●	52%	+2
生徒	「鳥山中学校はあいさつをよくする学校である」が <u>80%</u> 以上とする。	90%	○	87%	+3
保護者	「鳥山中学校はあいさつをよくする学校である」が <u>80%</u> 以上とする。	74%	●	71%	+3
地域	「鳥山中学校はあいさつをよくする学校である」が <u>80%</u> 以上とする。	63%	●	48%	+15

※¹「先生は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている」

※²「本校は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている」

重点目標8項目における「肯定的評価」の数値目標の達成状況は8項目中2項目（前年度1項目）だった。達成項目は、生徒による「先生は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている」と「鳥山中学校はあいさつをよくする学校である」の項目である。

以上のように、重点目標に照らした達成状況は2項目のみだったが、前年度より8項目中7項目は改善傾向が伺える。

Ⅲ 調査項目の評価結果と所見について

以下では、具体的な調査項目の評価結果について概観する。

1 授業・学習指導について

(1) ICTを活用した授業の分かりやすさ

学校経営の重点目標である「先生は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている」に対する生徒の肯定的評価は94%（前年度86%）だった。前年度よりも改善が見られ、生徒の肯定的評価の割合がここまで高い点は、教員の授業改善の努力の結果であり、高く評価できる。

一方、保護者の肯定的評価は54%（同52%）と生徒と比べて低い。これは例年通りの傾向であるものの、昨年度よりは改善が見られ、年々、改善傾向が伺える（一昨年度は46%）。

以上をふまえると、今後もタブレット等のICT機器のさらなる活用を通じた分かりやすい授業が期待される。また、保護者に対する公開授業の積極的な参加を促しつつ、さらに理解を深めていくことが求められる。

(2) 指導方法と評価について

①授業展開や教材等について

「先生は、課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」について、生徒の肯定的評価は94%（前年度同率）と極めて高かった。これに関連して、「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」については96%（同95%）、「黒板の書き方やプリントなどを工夫している」については92%（同94%）の肯定的評価だった。

前記のICT活用を通じた分かりやすい授業と合わせて、教員の授業改善に向けた努力や工夫により、生徒が満足する授業が行われているものと評価できる。

他方、保護者の「子どもが考えることや、課題を解決することを大切にしたい授業をしている」の肯定的評価は68%（前年度65%）、「考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」は78%（前年度76%）だった。例年通り、生徒よりも肯定的評価が低かったものの、前年度よりは若干の改善傾向にあり、引き続き、授業公開や保護者会等を通じて理解を深めていくことが必要である。

②提出物やテストなどに対する評価について（生徒のみ）

生徒の「提出物やテストなどを分かりやすく評価している」の肯定的評価は79%（前年度82%）だった。おおむね、生徒にとって納得のいく評価が行われているものと考えられる。

その一方で、否定的評価の割合が全体で17%（中学3年は20%）、また「わからない」を合わせると、2割程度が自身の評価について理解していない可能性がある。そこで、教員は担当教科の授業を通じて、日常的な提出物や定期的なテストにおける学習状況の積み重ねが評価され、総合的に「評定」に反映されていること等を丁寧に説明していくことが必要である。

③少人数授業（数学・英語）について（本校独自項目）

少人数授業に関する生徒の肯定的評価は 67%（前年度 64%）だった。

学年別で見ると、1 年生 60%（同 52%）、2 年生 69%（同 63%）、中学 3 年：74%（同 76%）となっており、学年が上がるにつれて高くなる傾向が見られ、特に 3 年生の肯定的評価が高いことが伺える。

学年ごとの生徒の学習的ニーズを捉えた上で少人数を活かしつつ、よりわかりやすい授業に向けた改善が求められる。

2 生活指導に関することについて

（１）生徒の規範意識と教員による生活指導に対する理解

生徒の「学校での過ごし方やルールについて考えて行動している」の肯定的評価は 91%（前年度 90%）だった。これに関連して、生徒の「先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせる指導をしている」の肯定的評価は 85%（前年度 87%）だった。加えて、「先生が指導した学校での過ごし方やルールについて理解できる」は 90%（前年度 87%）だった。

なお、保護者の「本校は、学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている」の肯定的評価は 75%（前年度 72%）、「本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している」の肯定的評価は 79%（前年度 82%）だった。

以上から、大半の生徒は規範意識をもちながら学校生活を送っており、教員の生活指導は大半の生徒及び保護者の支持と理解を得ているものと評価できる。引き続き、生活指導力の研さんが期待される。

（２）あいさつについて

本校独自の評価項目の「あいさつをよくする」について、生徒の肯定的評価は 90%（前年度 87%）、保護者は 74%（同 71%）、地域は 63%（前年度 48%）だった。三者で「あいさつをよくする」ということについて認識のずれが伺えるものの、前年度よりは改善傾向が見られ、地域における肯定的評価は大幅に改善された。

以上をふまえると、あらためて、生徒に対して「あいさつ」の意義や、本校が「あいさつの鳥中」を掲げることの理由や背景等について、日常的な生活指導を通じて理解を深めるとともに、地域の方々や来校者に対するあいさつも積極的に行えるよう、促していくことが求められる。

（３）独自項目（生徒のみ）：生徒の他者尊重・共感や意見表明

生徒の「違う意見を持った人とも仲良くできる」の肯定的評価は 88%（前年度 83%）、また、関連して「困っている人の思いを受け止めることができる」の肯定的評価は 86%（同 82%）だった。このことから、本校では多くの生徒が他者尊重・共感の姿勢を有していることが伺える。

他方、「自分の意見を他人に対して伝えることができる」の肯定的評価は 72%（同 70%）、否定的評価は 26%（前年度同率）で、生徒の 4 人に 1 人は自分の意見を伝えることができない状況も伺える。

こども基本法（2022 年）にもとづき、こどもの意見の尊重やこどもの意見反映について重要性

が増している社会状況下で、生徒が自分自身の意見を表明したり、他者の意見を聴いたりするための姿勢やスキルや、意見を言いたくても言えない人たちもいることへの配慮等はますます重要である。授業における対話的な学びの機会や、特別活動（学級活動、生徒会活動等）を通じて育んでいくことが求められる。

3 学校行事について

（１）学校行事の楽しさ・達成感

「学校行事は、楽しい」と感じる生徒の肯定的評価は 94%（前年度同率）で、保護者の「学校行事は、子どもにとって楽しい」の肯定的評価も 92%（前年度 93%）となっており、大半の生徒や保護者にとって学校行事が楽しいものとして評価されていることが伺える。また、学校行事の達成感についても、生徒の肯定的評価は 93%（前年度同率）、保護者は 90%（前年度 92%）と高かった。また、「行事などの取り組みで豊かな感性が育っている」の肯定的評価は保護者が 82%（同 82%）、地域が 79%（同 80%）だった。なお、地域のための評価項目では「学校行事の内容は充実している」の肯定的評価は 88%、「事前の準備や当日の案内などで、地域への配慮がある」は 74%だった。

以上から、本校が「行事の鳥中」を掲げている通り、学校行事が生徒、保護者、地域にとって、それぞれ意義があるものとして認識されるように展開されていると評価できる。

（２）生徒の意欲の尊重

「先生は、意欲を大切にしている」について、生徒の肯定的評価は 91%（前年度 90%）、保護者は 79%（同 80%）だった。関連して、生徒の「私は、企画を立てたら、それをやり遂げる自信がある」（独自項目）の肯定的評価は 69%（同 64%）だった。

生徒の意欲を高めることを通じて、「主体的な学び」や自主的・自立的な行動につながるような、生徒の意欲や意思を尊重した指導や支援が求められる。

4 キャリア教育について

（１）キャリア・パスポートに書いた目標に向けた行動等

「キャリア・パスポートに書いた目標について、考えて行動している」の生徒の肯定的評価は 51%（前年度 57%）で、否定的評価の割合は 40%（同 32%）だった。他方、保護者の「本校は、キャリア・パスポートの目標について子どもに考えさせる指導をしている」の肯定的評価は 48%（同 37%）であり、他方で「わからない」の割合は 39%（同 45%）だった。

以上をふまえると、半数程度の生徒や保護者は「キャリア・パスポート」を活用している状況を伺える一方、残りの４割の生徒や保護者は「キャリア・パスポート」を活用していない、もしくは活用できていない状況が伺える。そこで、キャリア・パスポートを活用している生徒や保護者の事例を把握しつつ、その事例を紹介しながら活用の方法等について、他の生徒や保護者にも周知していくことが求められる。

（２）進路や将来の仕事に関する授業・情報提供について

生徒の「進路や将来の仕事について、考える授業がある」の肯定的評価は 65%（前年度 73%）だった。学年別では、3 年生が 90%と高い一方で、1 年生は 47%、2 年生は 61%だった。

他方、保護者の肯定的評価は 58%（前年度 51%）で、「わからない」は 39%（同 33%）、否定的評価は 13%（同 16%）だった。

また、「進路や将来の仕事に関する情報を提供している」の生徒の肯定的評価は 70%（同 67%）で、高校進学等を控えた 3 年生の肯定的評価が 95%（同 92%）と特に高い。他方、保護者の肯定的評価は 54%（同 50%）で、否定的評価が 20%（同 21%）、「分からない」は 25%（同 30%）、そして、生徒の傾向と同様に 3 年生保護者の肯定的評価が 66%（同 67%）と最も高い一方で、1 年生保護者は 34%（同 35%）と最も低かった。

今後の課題として、進路指導やキャリア教育について、生徒の学年別、保護者への情報提供の在り方を意識していくことが必要である。

（４）生徒の将来の夢や進路と家庭内の相談について

生徒の「将来の夢や目標を持っている」（独自項目）の肯定的評価は 62%（前年度 61%）だった。なお、否定的評価については 1 年生 32%（同 35%）、2 年生 41%（同 31%）、3 年生 20%（同 26%）となっており、3 年生においても将来の夢や目標を持っていない生徒も一定の割合がいることから、進路指導やキャリア教育について、一層の充実が求められる。

関連して、「将来の夢や目標について保護者と話をすることがある」の肯定的評価は 61%で、学年別に見ると、1 年生 49%（同 52%）、2 年生 55%（同 57%）、3 年生 76%（同 77%）となっている。これに対して、保護者の「将来の進路について子どもと話をすることがある」の肯定的評価は 89%（前年度 85%）と、子どもの意識とは差があることも伺える。これらの状況を保護者に提供した上で、あらためて生徒の進路を含めた将来の夢や目標について、家庭の協力を求めることが必要である。

5 先生（教職員）について

（１）教員の指導の丁寧さ

生徒の「先生たちは、生徒にていねいに指導している」の肯定的評価は 93%（前年度 91%）だった。本校の教職員の指導全般に対して、生徒の信頼や支持が得られているものと評価できる。

一方、保護者の「本校は、丁寧に指導している」に関する肯定的評価は 72%（同 75%）だった。

（２）先生への相談のしやすさ

先生たちに「相談しやすい」に対する生徒の肯定的評価は 70%（前年度 72%）だった。関連して、生徒の「私は、学校に親しく話すことのできる先生がいる」（独自項目）の肯定的評価は 81%（前年度 80%）だった。

他方で、「相談しやすい」の否定的評価（相談しにくい）が 25%（前年度 22%）、「親しく話すことのできる先生がいる」の否定的評価（親しく話すことのできる先生がいない）も 15%（前年度同率）いる。今後もハートフルウィークの実施や「やりとり帳」の活用等を通じて、生徒がよ

り相談しやすい雰囲気や体制等をつくっていくことが求められる。特に、日常的に自分自身の意見や感想を積極的に言えない生徒や、教員との関わりが薄い生徒への声かけは必要である。

6 全般について

(1) 学校生活の楽しさ・達成感

「学校生活は、楽しい」に対する生徒の肯定的評価は 89%（前年度 87%）で、保護者の「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい」に対する肯定的評価は 82%（同 83%）だった。

これに関連して生徒の「烏山中学校が好きである」（独自項目）の肯定的評価は 90%（前年度 85%）だった。また、学校生活の達成感については、生徒の肯定的評価が 79%（前年度同率）、保護者は 74%（同 73%）だった。

以上をふまえると、本校に対する生徒や保護者の満足度や愛着度は非常に高いものと評価できる。

(2) 家庭学習の状況及び塾における学習状況（生徒のみ）

「家庭で宿題や e－ラーニングなどで学習をしている」について、生徒の肯定的評価は 65%（前年度 66%）、保護者は 55%（同 57%）だった。

他方で、「塾で学習をしている」との生徒の回答割合は 72%（同 65%）だった。学年別では1 年生 57%（同 52%）、2 年生 69%（同 65%）、3 年生 92%（同 79%）と、昨年度よりも通塾している割合は全学年で増えており、学年が上がるにつれて増えていく傾向が伺える。

以上をふまえると、生徒の負担も考慮しつつ、学校として宿題や家庭学習の意義や方針等についてあらためて確認した上で、特に通塾しておらず、学力の定着が図られていない生徒への学習支援が必要である。

(3) 学び舎の小学生・小学校等との交流（生徒のみ）・「学び舎」に関する情報提供（保護者・地域のみ）

「学び舎」の小学生・小学校等との交流機会（学び舎の小学校に行ったり、小学生が来たりする機会がある）について、生徒の肯定的評価は 28%（前年度 26%）だった（否定的評価は 59%）。

他方、「学び舎」の区立（幼稚園）小学校に関する情報提供について、保護者の肯定的評価は 37%（否定的評価 30%、「わからない」が 33%）、地域の肯定的評価は 49%（否定的評価 42%、「わからない」は 9%）と、相変わらず低い傾向となっている。

以上をふまえると、特定の生徒や保護者、地域の方々には、「学び舎」の活動に接する機会や情報が得られている一方で、それらが得られていない者も相当数いることが伺える。引き続き、烏山学舎の取り組みの認知を高めるために、「学び舎」活動とその情報提供の充実を検討していく必要がある。

(4) 体力の向上と健康な生活

「体力の向上や健康な生活に取り組んでいる」について、生徒の肯定的評価は 75%（前年度 72%）だった。これに関する保護者の評価も同程度（76%）となっている。

他方、生徒の23%（同26%）は否定的評価をしており、昨今の生徒の健康状況や生活状況の傾向（特に視力低下や睡眠不足等）をふまえつつ、体力づくりや生活改善等に向けた保健指導・学習の充実が求められる。

（５）部活動の楽しさや達成感

生徒の「部活動は、楽しい」の肯定的評価は82%（前年度78%）、保護者の「部活動は、子どもにとって楽しい」の肯定的評価は78%（同76%）だった。約8割の生徒や保護者が部活動の楽しさを認識していることが伺える。合わせて、部活動の達成感に関する肯定的評価は生徒が77%（同78%）、保護者が77%（同75%）だった。

このように部活動は学校教育の一環として、生徒や保護者から高い支持を得つつ、成果を認識されている状況が伺える。

教員の働き方改革（長時間労働の解消）の必要性から部活動の地域移行が進められる中、部活動指導員の活用や休養日の設定（現在は週当たり2日以上）と活動時間の設定（平日2時間程度、週休日等は3時間程度）等により、教員の労力的・時間的負担を可能な限り減らしつつ、部活動を継続していくことが期待される。

8 学校からの情報提供について（保護者・地域のみ）

（１）様々な便りによる情報提供

保護者の「様々な便りなどで、保護者に情報を提供している」の肯定的評価は87%（前年度84%）だった。保護者に対する情報提供は十分に行われているものと評価できる。なお、これに関連して、保護者の「学校からの連絡文書や各種たよりなどをよく見ている」（独自項目）の肯定的評価は80%（同75%）だった。他方、地域の「学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる」についての肯定的評価は88%（前年度84%）だった。

以上から、学校の便りは保護者や地域にとって、学校に関する重要な情報源となっていることが伺える。

（２）ホームページやメールなどによる情報提供

「本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している」の肯定的評価は85%（前年度73%）で、前年度よりも大幅に肯定的評価の割合が増えていることが伺える。

また、地域の「学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている」に対する肯定的評価は74%（同80%）だった。

特に、保護者世代はほぼ全てがスマートフォンやタブレット等から日常的に情報を得ているものと考えられることから、今後ともホームページの充実を通じた情報提供・発信が求められる。

（３）学校公開・保護者会等（保護者・地域のみ）

「学校公開や保護者会などで、生徒の様子が分かる」について、保護者の肯定的評価は84%（前年度82%）だった。関連して、保護者の「学校公開にすすんで参加している」の肯定的評価の割合は56%（前年度同率）、否定的評価は42%（同前）だった。保護者の学校公開への参加につい

ては、保護者が授業や生徒や教職員の様子等をはじめとする本校の運営状況を知る上で重要な機会であり、本評価に関わるものであることから、積極的な参加を促していくことが求められる。

他方、地域の「学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子が分かる」の肯定的評価は82%（前年度84%）だった。

（４）保護者同士の連絡・連携

保護者の「私は烏山中学校の他の保護者との連絡や連携をよくとっている」（独自項目）の肯定的評価は47%（前年度40%）で昨年度よりも割合が微増した一方で、否定的評価も47%となっている。なお、関連して、保護者の「学校行事、PTAや地域主催の行事などにすすんで協力している」の肯定的評価は56%（前年度54%）だった（否定的評価は40%）。

以上をふまえると、4割程度の保護者は保護者同士の関わりが薄く、生徒や学校の様子等の情報を個別に得ている可能性が高いことから、学校のホームページ等の充実が求められるとともに、引き続き、保護者間の連絡・連携の必要性についてもPTAの協力も得つつ、理解を求めていくことが必要である。

9 学校運営について

（１）学校の重点の周知と教職員の教育活動

保護者の「本校は、保護者に指導の重点を伝えている」の肯定的評価は72%（前年度62%）で、昨年度よりも大幅に割合が増えていることが伺える。また、関連する「教職員が指導の重点を理解して教育活動に取り組んでいる」に対する保護者の肯定的評価は64%（同61%）だった。その一方で、保護者の「今年度の学校の指導の重点を理解している」の肯定的評価は47%（同46%）だった。

引き続き、指導の重点について、保護者に対して保護者会やホームページ等を通じて説明、周知を図っていくことが求められる。

（２）地域の意見への対応（地域のみ）

「地域の意見に対して、学校はていねいに説明・対応している」について、地域の肯定的評価は63%（前年度52%）で、大幅に割合が増えていること（一昨年度の水準にまで回復）が伺える。

引き続き、学校運営委員会等を通じて、地域が学校に対してどのような意見があるかについて汲み取りつつ、適切かつ十分に説明をしていくことが求められる。

（３）地域の人的・物的資源の活用と地域の活動への協力

「地域の人や施設を教育活動に生かしている」について、保護者の肯定的評価は61%（前年度54%）、地域の肯定的評価は61%（同64%）だった。

引き続き、「社会に開かれた教育課程」の実現や、教員の働き方改革の観点からも、授業や部活動等における地域人材の活用や、地域の物的資源の活用がいつそう求められる。

（４）学校・地域の連携組織の状況（地域のみ）

「学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている」の肯定的評価は 54%（前年度 36%）で、昨年度は著しく割合が減ったものの、今年度は一昨年度の水準にまで回復していることが伺える。他方、「学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている」については 58%（同 64%）だった。

以上から、ホームページにおける「学校運営委員会」コーナーの充実を図りつつ（現在は情報掲載なし）、学校運営委員会において学校運営委員会の認知度を高めるために、委員会の活動及び委員の存在が分かるような情報発信の在り方等の方策の検討が求められる。

（５）学校の安全体制について

①安全な学校づくりについて

保護者の「本校は、安全な学校づくりを進めている」の肯定的評価は 74%（前年度 77%）、地域の「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている」の肯定的評価は 86%（同 80%）だった。また、地域の「学校は安全性を高めようと地域と協力している」の肯定的評価は 63%（同 68%）だった。

今後、より安全、安心な学校の実現に向けて、学校安全（生活安全、交通安全、災害安全）に関する課題について、PTAや学校運営委員会、そして地域の関係団体・組織を通じて共有しつつ、その解決に向けて協力していくことが求められる。また、その成果を学校の便りやホームページ等を通じて発信していくことも必要である。

②安全教育・管理について

保護者の「避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている」の肯定的評価は 85%（前年度 83%）だった。また、「自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している」の肯定的評価は 70%（同 74%）だった。なお、現在ホームページには、区教委の「大規模地震が発生した場合の対応」と「世田谷区立学校における台風時対策ガイドライン」が掲載済みである。

このことから、安全教育・管理もおおむね十分行われているものと考えられるが、後者の自然災害時の対応について、保護者の否定的評価（13%）や「分からない」（17%）の状況をふまえると、生徒や保護者に対してあらためて周知徹底しておくことが求められる。

特に、2024 年 8 月 8 日には、気象庁により「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が初めて発表されたこともふまえつつ、あらゆる機会を通じて、生徒、保護者、地域の方々に対して、今後、大きな地震があった際の対応（生徒の引渡しや学校待機、避難所開設等）に関する周知を徹底していくことが求められる。

IV 総合評価・所見

令和6年度の学校評価をふまえると、本校の学校運営は安定して行われているものと評価できる。

全体としては、学校経営方針で掲げた重点項目の目標値の達成状況は8項目中2項目のみだったものの、8項目中7項目は前年度よりも改善傾向が伺えることから、次年度以降も安定した学校運営が期待できるものと考えられる。

特に評価したいのは「先生は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている」に関する生徒の肯定的評価が94%だった点である。生徒の1人1台タブレットの活用が進んでいる状況が伺え、教員の授業づくりの工夫や改善の努力により、生徒の「分かりやすさ」の実感につながっている点は高く評価したい。

また、生徒の本校に対する満足度（学校生活は、楽しい）と、愛着度（烏山中学校が好きである）の割合もそれぞれ肯定的評価が9割と極めて高いことも評価したい。この要因については、生徒の肯定的評価が9割を超えている生活指導に対する納得感、学校行事の楽しさ・達成感、教員の指導の丁寧さが関係しているものと推察できる。

なお、これらに関する保護者の肯定的評価は、毎年度、生徒よりも低い割合となることは共通であるものの、学校行事の楽しさ・達成感は9割を超えており、さらに、地域の肯定的評価も高い（充実度に対して88%）。新型コロナウイルス感染症の沈静化を経て、「学校行事の烏中」の復活が伺え、本校と生徒、保護者、さらに地域とを結ぶ重要な位置づけとなっていることが伺え、次年度以降の学校行事も期待される。

加えて、保護者の肯定的評価のうち、学校からの情報提供（様々な便り、ホームページやメール等）に関する項目は85%を超えており、高く評価したい。次年度以降も、保護者からの本校に対する理解や信頼を得るための一つの手段として、ホームページの充実を通じた情報提供・発信を期待したい。

他方で、主な課題については、①生徒と保護者の共通の課題として、キャリア・パスポートの活用を含めた進路・キャリア教育に関することや、②生徒・保護者及び地域に共通の課題として烏山学舎の「学び舎」活動、そして、③保護者の固有の課題として保護者同士の連絡・連携があげられる。これらは、いずれも過年度からの継続的な課題である。現在の本校による取り組みが、生徒・保護者、地域の現状やニーズと一致しているかを再確認した上で、改善していくことが求められる。

前記の成果と課題をふまえつつ、次年度も引き続き、生徒や保護者、地域の信頼に応えられるような指導とそれを支える安定した学校運営を期待したい。